

特別企画

『コロナ禍を乗り越える看護学の教育方法の取り組み』

2020年初頭から発生した新型コロナウイルス（COVID-19）による感染は、世界的に拡大を続け、日本においてもさまざまな日常が変化しました。

大学では、文部科学省の通達を受け、学生の登校停止、大学施設の使用禁止があり、新学期からは、入学式やオリエンテーションも含めて、学生と対面する授業もできなくなっていました。日本中の教育現場は、皆、艱難辛苦し、どう打開できるかを試行錯誤していきました。

本学では各学科とともに検討を重ねた結果、5月11日以降にwebでの講義が再開されました。しかし、慣れないweb授業、学生と対面できない講義や演習、加えて看護学科では、直接的なケアを実践できない実習等々、それまで当たり前のように行ってきた教育方法はさまざまな変更を余儀なくされました。

この企画は、そのコロナ禍の中で、さまざまな制限を受けながらも、それぞれが創意工夫した教育方法の一端を紹介し、互いに共有し、新たな教育方法の開発の糸口にできればと考え企画しました。

今回の感染への対応は、しばらくの間、続くものと予測されています。だからこそ、このあとに続く教育方法の開発が必要と思われます。特別企画に寄稿していただいた実践報告を、これからのweb授業や対面授業に、活用していただけると幸いです。

令和3年3月

編集委員一同